

【一】次の文章を読み、後の問いに答えなさい。
本文中の（ ）の表現は、直前の語の意味を表します。【三】の問題についても同様です。

車に乗ると気を遣う。少し先の信号が黄色になったとき、「停止線で止まるべきかこのまま走るときか、赤になつたら停止しなければ」とあれこれ考える。また、前方に道路工事をする黄色と黒の模様が現れたら、「あまた渋滞か」と【一】する。その横を赤いサイレンを回しながら、パトカーや救急車が通り過ぎていく。赤や黄色が交通関係や危険作業で多用されるのは、少なくとも人にとっては「これらが【二】しなければならぬ色である」と、本能的にいつてよいほど強く刻印されているからだろう。

少し前にアメリカで、どの色の車が事故にあいやすいか、調査されたことがある。事故にあう確率が高いのは、青や緑といった車で、逆に黄色やゴールドの車は最も事故にあいにくいというデータが示された。黄色や赤色が人間にとっては最も目立つ色であることは、さまざまな実験から示されている。ただし黄色は昼夜とも目立つが、赤は夜間にはほとんど見えない。

色彩学では、緑や青といった寒色系は人間の目には縮小、遠方に見える効果をもつ「後退色」であり、赤や黄色といった暖色系は膨張、近縁に見える「進出色」と定義されている。赤は、黄色ほど目立つ色ではないが、ヒトではアドレナリンを分泌させ緊張を引き起こす色といわれる。この説が本当なのかは知らないが、興奮と緊張を表す色として古来より使われてきた。【ア】

黄色やオレンジ色を最も暗い色である黒と組み合わせると、とくに目立つ色となる。道路工事に使われる黒に黄色のストライプは、自然界でも幅広く使われている。また、黄色の背景に黒の文字、もしくは逆に黒の背景に黄色などは、文字や形を際立たせる効果として絶大な威力を発揮する。放射性物質やバイオハザードの表示マークも、黄色と黒の組合せが多い。また、色の暗い輪郭の中に明るい色を配色すると、輪郭のないものに比べ、より際立った色を目立たせることができる。【イ】

このような警戒色と輪郭の組合せは、目玉模様でも頻繁に使われる。【ウ】目玉模様や警戒色が人間に向けてのものでだけではないとすると、「人間以外の動物にも、このような警戒色や輪郭線を当然認識できるだろう」と想像する。【エ】

【Ⅲ】色はすべての動物にとって同じものかというところではない。われわれが色と感じているのは、エネルギーの異なる光が物に反射したものを視覚と脳で処理して、その物質が何色であるか判断している。赤、黄、緑、青といった色は人間にとっての色であり、ほかの動物では同一ではないと思つたほうがよい。

【Ⅳ】色は目と脳がつくりだしている。 【Ⅴ】スズメバチは赤色は認識でき

ないといわれているし、逆にモンシロチョウは、人間が感知できない紫外光を配偶行動に利用している。人間が名称をつけていない「色」を動物たちはもっており、また人間が名称をつけている「色」をまったく認識できない動物がいるのだ。どれだけの種類の色をそれぞれの動物が識別しているかはわからない。しかし、個々の生物にとっての色は、その生物種が生きていくうえで必要不可欠からざるものが進化的に選択されてきた「適応的産物」なのだろう。

一番わかりやすいのは、スズメバチと熊の関係である。スズメバチにとって熊は天敵だ。せっかく築いた巣を壊し、中の蜂蜜やら幼虫を台無しにしてしまう。スズメバチ自体は、強力な社会性と毒による攻撃力をもっているため、実質的な天敵は熊以外には見当たらない。巣を破壊するといった「無謀な行動を起すのは熊くらのものだ。スズメバチとその唯一の天敵である熊との「コウボウは、おそらく何十万年以上もあだ続いているため、スズメバチは熊のような黒っぽい体色に対しては、攻撃をしかける習性が選択されたらしい。山菜採りに行った黒っぽい服装の人や頭の黒い人間がスズメバチに襲われるのは、その習性のためというのがもつぱらの説だ。ゾウセイ地では人間がブルドーザーでスズメバチの巣を破壊しているが、せいぜいこの四〇〇五〇年のことだ。スズメバチがブルドーザーを目掛けて攻撃するといった習性を獲得するには、何万年もの時間が必要であるに違いない。

スズメバチと熊の例を見て「異種の動物のコミュニケーションにおいて色に意味がある」と気づいたのは、人間が熊と見誤られて実際に襲われているからである。もしそうでなければ、そのような関係性にはまったく気がつかなかったかもしれない。仮にスズメバチが熊を攻撃しているのを目撃しても、スズメバチの巣を壊した熊が襲われているのだからとしか見えないだろう。スズメバチが人間を襲うといった、本来の行動とは違う誤った行動をかいま見せることにより、われわれはその特殊な関係性にはじめて気づかされる。

おそらく、この広い地球上には生物種同士の「色が重要な意味をもつ」例が山ほどあるに違いない。ただ、人間がそのような「キョク地紛争」には気がついていないだけだ。色のもつ意味は、動物のライフスタイルによってまったく異なる可能性がある。この点については、残念ながらわれわれはどのような工夫をしてもその実体を知るのには難しいだろう。

一方、スズメバチにとっての熊の体色のような特別な関係の意味する色とは異なり、警戒色や目玉模様はかなり普遍的な信号として、広範に使われているものと推測される。ただし、その信号を受信する側が、本能的にそれを感じるのか、学習によって学んでいるのかは、ケース・バイ・ケースの（場合による）ように思われる。有毒なジャコウアゲハは真つ黒な翅に赤いスポットを見せびらかすかのごとくゆつくりと飛ぶ。天敵である鳥は、いとも簡単に捕まえて食べることができるが、そのま

問6 次は、傍線部1について「青や緑といった車」が「事故にあう確率が高い」理由を説明した文です。空欄に当てはまる最も適切な語を、本文中からそれぞれ漢字二字で抜き出し、答えなさい。ただし【4】は※印の段落から抜き出すこと。

青や緑は【1】色であるため、その色の車は他の色の車より【2】して見えるので、【3】にあるように思い込んでしまい、事故を避けるため【4】が遅れてしまったため。

問7 次の文は本文中の【ア】～【エ】のいずれかの箇所に入ります。適切な箇所を選び、記号で答えなさい。

ゴッホが「ひまわり」や「黄色い家」などでその特有な輪郭の中に黄色を配したのは、その応用のように思える。

問8 傍線部2「その生物種が生きていくうえで……『適応的産物』」を簡潔に言い換えている一語を、傍線部2以降の本文中から抜き出し、答えなさい。

問9 傍線部3「もつぱらの」の意味として適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 固定の イ 大方の ウ 最新の エ 古来の

問10 傍線部4「スズメバチが人間を襲うといった、本来の行動とは違う誤った行動」とありますが、どうして「誤った行動」と言えるのですか。このように言える理由を、六十文字以内でわかりやすく説明しなさい。

問11 傍線部5「学習能力」とありますが、この場合、具体的には何を指す能力を指しますか。本文中の言葉を用いて二十文字以内で答えなさい。

問12 傍線部6「（ ）の終わり」は「物事の結末がつくこと」を意味する慣用句です。空欄部に入る適切な漢字一字を次から選び、記号で答えなさい。

ア 瞬 イ 末 ウ 生 エ 命 オ 巻

ずさに懲りて二度とこのような紋様をしたチョウを食べなくなる。つまり、味と紋様という二つの形質を学習によって結びつけるという過程を経て、警戒色は成立している。この場合、死なない程度の毒だからこそ、経験が生かされ学習が成立している。では警戒色のすべてがこのような学習によって成立しているのだろうか？もし、そうだとするならば、警戒色や目玉模様は、学習能力がある程度高い捕食者、脊椎動物、つまり、哺乳類、鳥、爬虫類、両生類、魚類などに向けたシグナルなのだろう。

しかし、強力な毒をもつ有毒の蛇が見せる警戒色などは、捕食者に学習する余裕はない。かまれてしまったら（ ）の終わりだ。ひよつとしたら、捕食者は本能的に蛇を避けるように遺伝子に書きこまれている場合もあるかもしれない。被食者の警戒色は痛い目にあわないとわからないシグナルなのか？ 遺伝子の中にスリこまれている記憶なのか？ 私が蛇ざらいである理由や記憶をたどつてみてもよくわからない。

問1 太線部a～dのカタカナを漢字に直しなさい。

a コウボウ b ゾウセイ地 c キョク地紛争 d スリこまれて

問2 太線部ア・イの漢字の読みを平仮名で答えなさい。

ア 分泌 イ 無謀

問3 空欄部Iに入る最も適切な語を次から選び、記号で答えなさい。

ア こりこり イ どきまぎ ウ ほつと エ うんざり
オ びっくり

問4 空欄部IIに入る適切な語を本文中から抜き出し、漢字二字で答えなさい。

問5 空欄部Ⅲ～Ⅴに入る語として適切なものを次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア ところが イ たとえは ウ おそらく エ つまり
オ かりに

〔二〕次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(設問の都合で本文の一部を変更しています。)

山科のノ観は、利休と同じ頃の茶人だった。ノ観は利休の茶にいくらかへつらい気味(人)に同調する傾向があるのを非難して、「あの男は若い頃は、心持ちの秀れた人だったが、この頃の様子を見ると、真実が少なくなつて、まるで別人のようだ。あれを見ると、人間というものは、二十年目ぐらいいは心まで変わつてゆくものと見える。自分も四十の坂を越えて、やつと解脱の念(悟りの心境)が起きた。鴨長明は蝸牛のように、小さな家を洛中(都の中)に引つ張りまわし、²自分は蟹のように他人の掘った穴を³カリーてゐる。こうして現世を夢幻と見るのは、すべて心ある人のすることだが、利休は人の盛んなことのみを知つて、それがいつかは衰えるものだということを知らないようだ。」と言ひ言ひしてゐたが、利休は別に自分のすばらしい天地をもつており、それに性格から言つても、ノ観よりは大きいところがあったから、そんな非難をあまり頓着しなかつた(気にしなかつた)ようだ。

あるとき、ノ観が茶会を開いて、利休を招いたことがあった。案内にはわざと時刻を間違えておいた。その時刻になつて、利休はノ観の草庵(粗末な家)を訪れた。ところが、せっかく客を招こうというのに、門の扉はびつたりと閉つてゐた。「はてな。」利休は門の外で早くも主人の趣向にぶつかつたように思つた。ノ観はそのころの茶人仲間でも、一番趣向の気取つてゐるので知られた男だった。利休はその前の年の秋、太閤(豊臣秀吉)が北野に大茶の湯を⁴催したときのことを思い出した。その日利休は太閤のお供をして、方々の大名たちの茶席を訪れた。そして由緒のある高貴な道具の数々と、そんなものをうまく取り合せていた茶席の主人の心遣いとを味わつて、眼も心もいくらか疲労を覚えた頃、ふと見ると、緑青を砕いたような松原の木陰に、朱塗りの大傘を立てて、その下を小ぢんまりと葦垣(葦の垣根)で囲つてゐるのがあった。主人は五十ばかりの法体(僧の姿)で、松の小枝に瓢をつるし、その下で静かに茶を煮てゐた。ものずきな太閤が、ずかずかと傘の下に入つていつて、「どうだ。ここにも茶があるのかい。」と大声に訊かれると、主人はつつましかに、「はい。用意いたしております。」と⁴言ひさま、茶碗に白湯をくみ、瓢から香煎(麦などをいれた粉)をふり出して、この珍客にさし上げた。その法体の主人こそ、ほかでもない山科のノ観で、⁵その日の高く取り澄ました心憎さは、いまだに利休の心に軽い衝動を与えずにはおかなかつた。

利休は潜り戸を開けて、中に入つた。見ると、すぐ足もとに新しく掘ったばかりの坑があり、簀子をその上に横たえて、ちよつと見に分らぬように土が⁶被せかけてあつた。「これだな、主人の趣向は。」客はその瞬間、すぐに主人の悪戯を見てとつた。平素から(童叟から)客としての第一の「ココロエ」は、主人の志を無駄にしないことだと、人に教へもし、自分にも信じてゐる彼は、何の躊躇もなく足をその上に運んだ。すると、簀子は「I」とへし折れる音がして、客はころころと坑のなかに転げ込んだ。

客としてのココロエは、主人の志を無駄にしないことだと思つてゐた利休も、案外その志と坑とが二つともあまりに深く、落ち込んだままだうすることも出来ないで、困りきつてゐた場合なので、ノ観が上から出した手に縋つて、「やつとな。」と起き上がつて坑の外へ這い出して来た。二人は顔を見合せて、「II」と声をあげて笑つた。客は早速湯殿(風呂場)に案内された。湯槽には新しい湯が溢れるばかりに沸いてゐた。茶の湯の大宗匠はその中に浸り、のんびりした気持ちになつて頭のとつぺんや、頸窩(首の後ろのくぼみ)にへばりついた土を洗い落とした。浴みが済むと、新しい卸し立ての衣裳が客を待つてゐた。利休は勧められるがままにそれを着けて、茶席に入つた。「すっかり生まれかわつたような気持ちだ。」利休は全くだ知つて、わざとそれにはまり込んだからだと思つた。これから後も落し坑にはせいぜい落ちた方がいいと思つて、にやりとした。

ノ観は、客が上機嫌らしいのを見て、すっかり自分の計画が当たつたのだと考えて、いい心持ちになつてゐた。それを見るにつけて利休は、主人のせつかくの志を無駄にしなかつたことを信じて、一層満足に思つた。

(薄田泣菫著 「艸木虫魚」)

問1 太線部 a・b のカタカナを漢字に直しなさい。

a カリーて b ココロエ

問2 太線部 A・U の漢字の読みを平仮名で答えなさい。

A 催した I 被せかけて U 溢れる

問3 傍線部 1「鴨長明」が書いた随筆の作品名を次から選び、記号で答えなさい。

A 徒然草 I 源氏物語 U 枕草子 E 方丈記

問4 傍線部 2「自分」とは誰のことですか、次から選び、記号で答えなさい。

A 太閤 I ノ観 U 利休 E 茶人 O 長明

問5 傍線部 3「あるとき」からみて、過去の出来事を回想して書かれた箇所が、本文中にあります。その箇所の始めと終わりの六字ずつを、傍線部 3以降の本文から抜き出し、答えなさい。
(句読点も一字と数えます。句読点等の数え方は以下の問いも同様になります。)

問6 傍線部 4「言ひさま」の「さま」と同じ使われ方をしているものを次から選び、記号で答えなさい。

A これは何て⁷さまだ。 I 偉人の生き⁸さまに学ぶ。
U ふり向き⁹さまに目に入る。 E さま¹⁰さまな考え方を知る。

問7 次の文は、傍線部 5「その日の高く取り澄ました心憎さ」とはどのような点にあるのかを説明したものです。空欄部 A・Cに入る適切な語句をそれぞれ本文中から抜き出しなさい。ただし、A・Cは十五字以内、Bは二字で答えなさい。

方々の大名たちの茶室を訪れ、立派なもてなしを受けた後である客たちの状態は A であらうとノ観は推し量り、自分はあえて自然の中で素朴な趣きを演出し、風変わりな事を好む B の興味を引きつけ、 C とは対照的な「松の小枝につるし」た「瓢」を使うなどしてもてなしたことが、「心憎さ」を感じさせる点だと言える。

問8 傍線部 6「異様なものの音を……わざと慌てふためいて外へ飛び出して来た」のはなぜですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

A 予想以上の悪戯になつてしまったので、不安になつたため。
I 騒ぎをことさら大きくして、利休に恥をかかせるため。
U 利休のあわれな姿が予想され、気の毒に思えて仕方がなかつたため。
E 自分がひそかに考へてゐることを、相手に悟られないため。

問9 空欄部 I・IIに入る適切な語句を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A おずおず I めりめり U きびきび E しずしず
O からから

問10 傍線部 7「とんだ粗相(通ち)」とは、ここでは「誰の」「どのような」行為ですか、簡潔に答えなさい。

問11 傍線部 8「自分が落し坑だと知つて、わざとそれにはまり込んだ」のは利休のどのような心遣いによるのですか。その内容を含んだ一文を、傍線部 8以前の本文中から抜き出し、冒頭四字で答えなさい。

問12 傍線部 9中の「自分の計画」とは、具体的にどのようなものですか。本文中の言葉を使って、わかりやすく説明しなさい。

問13 次の各文について、本文の内容に合うものにはAを、合わないものにはBをそれぞれ記しなさい。

A 利休はノ観の茶会でもてなしを受けることによって、若い頃の秀れた心持ちを取り戻した。
I 土だらけになつた利休は、自分が期待したとおりのもてなしを受けて、気持ち満ちた。
U 利休は、ノ観を快く思わないこともあつたが、彼の型破りな趣向には一目置いてゐた。
E 利休に潜り戸から入つてもうらうために、ノ観は茶会の案内にあえて違ふ時刻を知らせた。

国語

解答用紙

受験番号

得点

※

※

※

※

※

※

※

問12	問11	問10			問7	問6	問3	問2	問1
						1		ア	a
								分泌	コウボウ
					問8		問4		
						2			
								イ	b
								無謀	ゾウセイ
						3	問5		
							Ⅲ		
					問9				地
						4	Ⅳ		c
							Ⅴ		地紛争
									d
									ス
									りこまれて
20	60	40	20						

二

※

※

※

※

※

※

※

※

問13	問12				問10	問8	問7		問5	問3	問1
ア							B	A	始め		a
											カ
イ					問9					問4	
					I	C					
											りて
ウ											b
											ココロエ
					Ⅱ						
エ											
									終わり		問2
											ア
											催
											した
											イ
											被
											せかけて
											ウ
											溢
											れる

問11

問6